

# 令和4年度 第1回多職種連携研修会アンケート結果報告

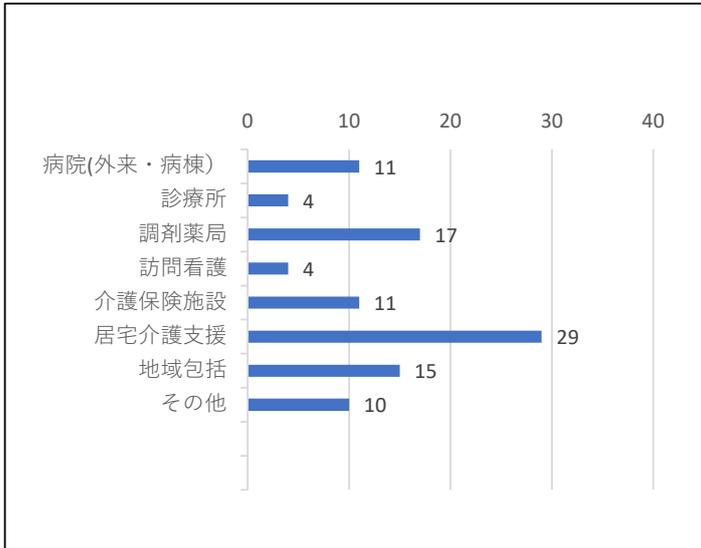
開催日時：令和4年6月17日（金）13時30分～15時

研修方法：Zoomによるオンライン参加

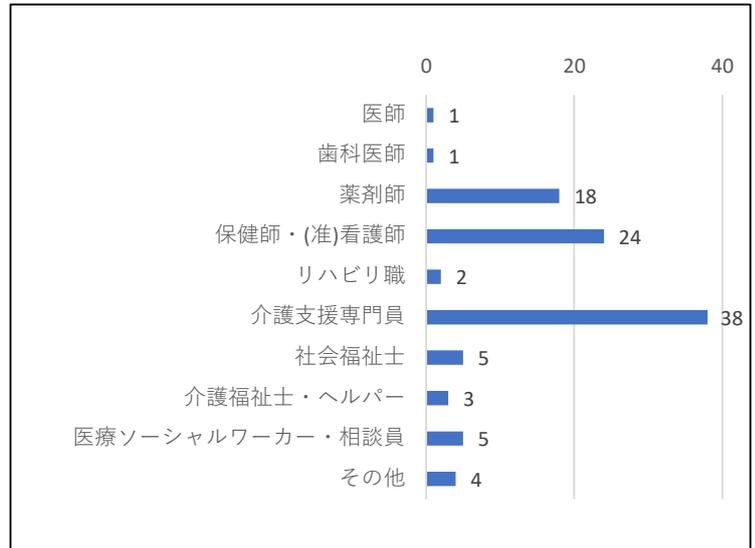
参加申込人数：131名

アンケート回答：101名 回答率77%

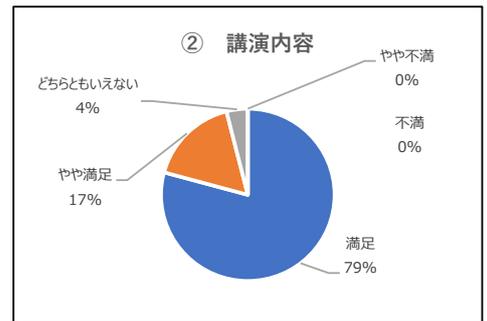
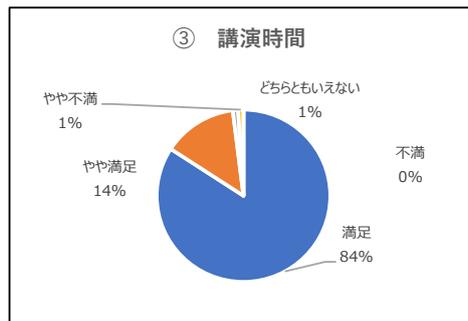
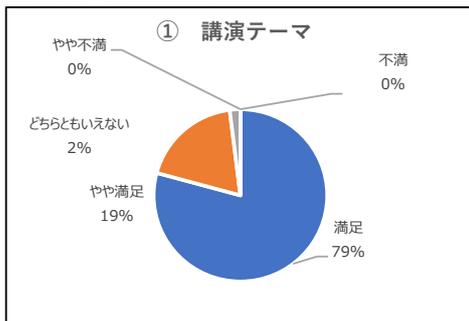
## 1 事業所種別



## 2 職種別



## 3 講演会について



### ①～③を選択した理由について（抜粋）

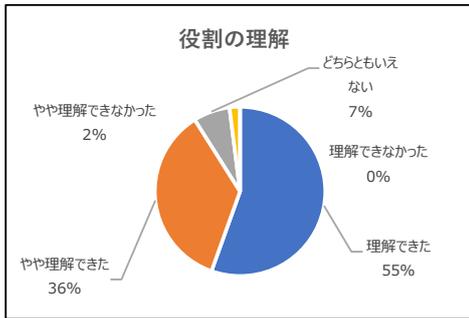
（満足・やや満足）

- ・いつもと違うと気付けるよう、いつも確認することが大切という事を改めて考えさせられた。
  - ・高齢者が多い地方であるため、接する機会も多く今回の内容は日々の業務に活かすことができると思う。患者さんへの質問の仕方もうかがうことができたのは良かった。
  - ・訪問時に活用できる実務的な内容だった。
  - ・事前に資料の読み込みをしていなかったため、初めは戸惑ったが、池上先生の説明がわかりやすく納得できた。普段何気なく確認していることだったが、少しの変化に気付き、繋がられるようにしたい。
  - ・高齢者を対象とした仕事であり、基礎疾患から心不全へと体調変化を引き起こしやすいため、ツールを使用して状態の把握や情報の共有ができると良いと思った。
  - ・予め資料の読み込みが不十分であったため、画面と資料を追うのに苦戦した。私たちが関わる利用者様はほとんどが80歳以上なので、心不全のリスクや小さな変化に気付くことの重要性をわかりやすく学ぶことができた。
  - ・理解しやすい色分け、利用者さんに適用する早見カードなど資料に工夫があり、長期的に役立つ内容だった。
  - ・呼吸観察、息遣いの変化に気付きやすくなった。共通の信号カラー（SATカード）を使うと伝達しやすかった。
  - ・心不全に対し、自信をもって医療連携できると思う。「アクションプランを作ることが勉強したこと」の言葉が心に響いた。
- 普段の様子を観察していることが大事で、いつもと違うと思ったらすぐ受診することが大切で重症化しない。初動が大事だということを地域の方たちと共有できた。

(どちらともいえない)

- ・画面に出ている資料が配られた資料のどこに書いてあるのか分からず探した。
- ・事前に資料を読んでおく必要があったと思った。

#### 4 役割の理解について



「理解できた・やや理解できた」(抜粋)

- ・訪問看護を利用してもらいたい状況の方が結構いらっしゃる。体調不良時に、医師、看護師に報告や相談であってもSBARカード有効だと感じた。
- ・日頃からの顔の見えるコミュニケーション作りの大事が連携につながると感じた。
- ・心不全物語カードを使って判断すると、医療関係者でなくても目安の指標として使えるので、活用できたらと思う。
- ・担当者会議で、観察するポイントを共有できるようにし、役割分担をして、黄色信号でとどめられるように支援したい。
- ・迷った際には、速やかに医療職に相談し、指示を受ける。また明らかな危険を感じた場合、迷わず救急につながるなど行動をしたい。

- ・薬局での投薬時、症状の聞き取りから心不全の最初の変化を気付いたらどう対応すべきかシュミレーションできた。
- ・普段の様子から黄色信号の段階で他職種と情報共有しておく。

次のステージに進行する前に浮腫や呼吸など前兆が出ないか観察が必要ということなど具体的に分かったため。

「どちらともいえない・やや理解できない」(抜粋)

- ・事前予習が必要ということを知らず、そのまま講義に参加してしまったため。
- ・医療職はわかる内容だったが、ケアマネや介護職の理解が深まったのかどうか。
- ・インターネットを早めにつないだのですがつながらず、途中からの参加となった。今後、ノートパソコンだけでなく、デスクトップにマイクとカメラを付けるなど対策をしたいと思う。後日ホームページ配信を確認したいと思う。
- ・介護職で心不全の進行状況を判断することは難しいと感じる。

#### 5 今回の研修会に参加しての感想(自由記載抜粋)

- ・SBARカードなど、聞いたことはあっても、どのように活用するかわかっておらず、馴染みがなかったが、今回物語カード含めて勉強し、業務に役立てることができそうだと感じた。心不全物語カードや早見カードを共通のツールとして利用したい。

(心不全物語カード等スケールについて13件)

- ・常日頃から患者一人ひとりの状態を把握すること。患者だけでなく、家族、ケアマネと共有することが大切であると改めて感じた。地域全体で連携し取り組めたらと思う。
- ・研修会全体を通して、薬剤師としてどのように関わらべきか考え直す機会となり、アウトプットしながら参加できる良い研修会だった。
- ・心不全に関わらず、病気の具体的な症状を知っておくことで、患者様の変化をより早く気づき、早期発見につながるようにしていきたいと思う。
- ・今回のカードが市内各職種間で連携できるためのツールになるとよいと思う。それに関して検討して頂きたいと思う。消防の方にも理解してもらえると急変時の連携も上手く伝えられるのではないかと。
- ・心不全に関して理解を深め、心不全パンデミックに備え、最初の変化にいかんして気付くかなど、初動の重要性を理解した。患者や家族に対しても進行させないことの重要性を理解してもらえるように努めていきたい。
- ・先生の話は分かりやすく他の参加者の方の質問や感想も参考になった。先生の講演は理解しやすく大変参考になった。等(5件)
- ・事前学習用の資料と思わずしっかり事前学習しないまま研修に参加してしまった。復習をしっかりしたいと思う。事前学習の資料がある場合、もう少しわかりやすく案内して欲しい。等(3件)
- ・Zoomの音が途切れたり、返答時の声が聞こえないトラブルがあり残念だった。等(3件)

#### 結果・考察

アンケート結果より、テーマ・内容について96%が「満足」「やや満足」と回答している。  
また各職種の役割の理解についても91%が「理解できた」「やや理解できた」と回答している。  
その理由としては、各職種が普段の様子を観察していることが大事であると理解され、いつもと違うと感じたら、すぐ多職種と連携し受診につながれると、心不全の重症化は防げると理解された。また顔の見える関係づくりや情報共有の大切さも再認識され、池上先生が実際に活用されている心不全物語カード等を現場で活用したいとの意見も多かったことから、満足度・理解度が高く実践に即した研修であったと思われる。  
しかし、「講師の声が途切れて残念だった。」「次回は改善して欲しい。」など音声のトラブルについての意見もあった。今年度は、あと2回Webでの研修会を予定しているが、進行がスムーズに行くように万全の準備で臨みたい。